

令和4年第12回青森市教育委員会定例会 会議録

1 開会日時

令和4年12月23日（金）午後2時7分

2 閉会日時

令和4年12月23日（金）午後2時33分

3 会議開催の場所

教育研修センター 5階 大研修室

4 出席者

- (1) 教 育 長 工 藤 裕 司
- (2) 教育長職務代理者 池 田 享 誉
- (3) 委 員 土 岐 志 麻
- (4) 委 員 天 内 博 康
- (5) 委 員 齋 藤 美 鈴

5 事務局出席職員

- (1) 教 育 部 長 小 野 正 貴
- (2) 総 務 課 長 金 澤 敦
- (3) 文化学習活動推進課長 杉 山 潔

6 会議に付議された案件

(1) 議案

なし

(2) 報告

- ①寄附採納について (教育委員会事務局総務課)
- ②令和4年度青森市はたちのつどい（成人式）開催について (文化学習活動推進課)

7 会議録署名委員

- (1) 池 田 享 誉
- (2) 土 岐 志 麻

8 会議の概要

午後2時7分に教育長が開会を宣言する。会期を1日とし、会議録署名委員を前項7のとおり指名する。

審議議案はなく、2件の事案を報告した後、その他として、学校訪問後の感想・意見等について、池田委員・天内委員が発言し、午後2時33分に閉会した。

9 会議の状況

(1) 議事

○工藤教育長

本日、審議案件はありません。

(2) 報告

○工藤教育長

次に、報告事項に入ります。

今回の報告事項は2件となっております。

初めに、報告1「寄附採納について」事務局から説明をお願いします。

○総務課長

お手元の「寄附採納一覧（令和4年11月1日～11月30日）」を御覧ください。

小学校における寄附採納といたしまして、

「青森市立三内小学校 父母と教師の会」様から三内小学校に対し「5.5型液晶ディスプレイ」など、11校に対し12件の寄贈申出があり、受領いたしました。

中学校における寄附採納といたしまして、

「青森市立甲田中学校 部活動振興会」様から甲田中学校に対し「除雪機」など、2校に対し2件の寄贈申出があり、受領いたしました。

詳細につきましては、資料記載のとおりであります。

このたびの御厚意に対し、心から感謝いたしますとともに、有効に活用させていただくこととしております。

以上でございます。

○工藤教育長

ただいまの事務局の説明に、御意見、御質問等はありませんか。

～ なし ～

○工藤教育長

次に、報告2「令和4年度青森市はたちのつどい開催について」事務局から説明をお願いします。

○文化学習活動推進課長

令和4年度 青森市はたちのつどいについて御報告申し上げます。

委員の皆様には、先日、御案内を差し上げておりましたが、改めまして、来年1月に開催いたします。令和4年度はたちのつどいの実施概要について御報告申し上げます。

今年度、民法改正による成年年齢の引き下げがあったところですが、対象については、これまでどおり、20歳を迎える方とし、今年度からは、名称を「はたちのつどい」と変更して開催することといたしました。

お手元の資料を御覧ください。

まず、開催日時、対象者及びテーマについてであります。令和5年1月8日（日）の午前11時から開催いたします。

対象者は、平成14年4月2日から平成15年4月1日までに生まれた方で、テーマは、Bon Voyage！（ボン・ボヤージュ）とし、人生を船旅に例え、困難をも楽しみながら未来への航路を切り拓いてほしい、よい旅となるよう励ましたいとの思いが込められております。

次に、式典会場についてであります。昨年度に引き続き、市内20か所の会場での分散開催としており、青森地区の市立中学校出身の方につきましては、各出身中学校での開催、浪岡中学校出身の方につきましては、青森市中世の館での開催、青森市立中学校出身以外の方などにつきましては、アウガ5階、男女共同参画プラザAV多機能ホールでの開催となっております。

また、各会場の企画・運営につきましては、会場ごとに実行委員会を組織し、様々な工夫を凝らしながら企画・運営を行うこととしております。

次に、式典等の開催内容についてであります。別添の開催内容のとおり、式典につきましては、各会場共通の基本的な内容といたしまして、オープニングビデオから始まり、開会の言葉、市長からの言葉、参加者代表の言葉、最後に閉会の言葉で締めくくる運びとなっております。また、アトラクションにつきましては、当時の先生方からのメッセージや校内散策など、会場ごとに実行委員会が企画した催物が準備されております。

式典に御出席いただけます委員の皆様におかれましては、年始のお忙しい時期ではありますが、コロナ禍という近年まれに見る厳しい社会情勢の中で、困難に立ち向かっていこうとする20歳を迎えるかたの門出を祝福していただければ幸いに存じます。

以上でございます。

○工藤教育長

ただいまの事務局の説明に、御意見、御質問等はありませんか。

～ なし ～

(3) その他

○工藤教育長

その他、本日の案件以外に教育委員の皆様から何かございませんか。

～ なし ～

○工藤教育長

それでは、本年度、教育委員の皆様それぞれに設けたテーマに基づき、学校訪問として小・中学校を御覧いただいたところでありますが、訪問を終えられた感想等を少し伺えればと思います。本日は、池田委員と天内委員にお願いいたします。まず始めに池田委員からお願いいたします。

○池田委員

私は、学校訪問のテーマをいじめに関する感度の高い学校とし、小・中学校1校ずつ訪問いたしました。いじめに関する感度の高い学校は何かしらの工夫をしていると考えられ、その工夫を他の学校でも取り入れることによって、いじめをより早期に認知し対応することで児童生徒がより良い学校生活を送れるようになるだろうと考えたためです。今年度、中学校は三内中学校を訪問しました。三内中学校では小中一貫教育が実施されていまして、小学校から中学校へ児童生徒の情報の引き継ぎがしっかりできているという特徴がありました。この利点を校長先生が非常によく分かっており、生徒やいじめへの対応に生かしていると感じました。三内中学校は今年度非常にいじめの認知件数が多くなっていますが、担当している先生方は昨年度と同じとのことでしたので、いじめの認知の感度については、校長先生の考え方や校長先生から担当の先生方への伝え方が非常に大きく影響していると感じました。

校長先生は、やはりいじめが重大事態に発展することがないように、まずは日常の中で生徒の表情とか様子がいつもと違うと気づくことが大事だということを各先生には機会あるごとに伝えていて、各先生方もお昼休み・休み時間・放課後等に廊下等で生徒と会った時に一声掛けたりして、その反応から日頃とちょっと違うかもしれないというところがあれば積極的に先生方で情報共有するよう努めているとのことでした。また、三内中学校では複数担任制となっており、それが各先生方の負担軽減につながっていて、あの生徒少し普段と様子が違うかもしれないと思ったときは、先生方同士で情報共有するとしても複数担任制であることから、それぞれの先生が我がこととして取り組んでいるため、その認

知件数の感度のよさにつながっているということでした。

いじめに関する情報の集め方として、通常はアンケートが一般的ですが、三内中学校ではアンケートよりも先生方の日常の生徒観察や声掛けというところから「ちょっと何かある？」と声掛けをして個別にお話を聞いていく中で確認できるということでした。普段と異なる様子・表情といった違和感を大切にして声掛けをすることが認知件数の増加につながっており、そのことを他の先生方と共有することによって、みんなで生徒たちの様子を気にしながら普段と違うというところをきっかけにして、いじめの認知につながっているということでした。アンケートはどうしても多少タイムラグが出てしまうのでこちらのやり方ができるならこれが一番いいのかなとも感じた訪問でした。

もう1校は金沢小学校を訪問しました。金沢小学校は、1年生から6年生まで、かなり年齢・成長の違う児童たちがいる中で、情報端末の使い方の習熟度にも差があるので、いじめのアンケートは紙に筆記用具で書く、というような記入の仕方でした。学校の教室で紙に鉛筆でいじめについてのアンケートを書くということになると周りの友達とかクラスメートの様子が気になってしまって書きづらいということもあるということはしっかり小学校のほうで分かっている、学校でいじめアンケートを記入する際には、文章を記述している児童が目立たないよう、例えば今月楽しかったことやうれしかったことはどんなことですか、とかこれからやってみたいことやがんばりたいことを書いてくださいというような形で、いじめに関係ない事項の記述の項目も設けるといった、そのアンケートに文章を書いても決して目立たないというような工夫をしているという話でした。

私も何年か小学校と中学校の訪問をいじめに関する感度が高い学校というテーマで回っていますが、行く行くはある程度、今は学校ごとに把握の仕方やアンケートについての項目を設定していますが、ある程度の部分について各学校に共通のひな型みたいなものを教育委員会のほうで作って、それにある学校ごとの特色を合わせた取組という形でやっていってもらえればと思いました。私からは以上です。

○工藤教育長

池田委員ありがとうございました。委員の皆様から御質問等ありませんか。

～なし～

○工藤教育長

次に天内委員お願いいたします。

○天内委員

私は訪問テーマが2つありまして、一つはプログラミング教育、もう一つはクロームブック活用授業ということで訪問してまいりました。プログラミング教育については北小学校に行っていました。小学校におけるプログラミング教育というものはプログラミング教育という授業ではなくて、色々な授業の中で取り組む、ということになっていたかと思えます。私は4クラス、2年生の図工、4年生の音楽、5年生の家庭科、6年生の算数、こちらのほうを見てきたんですけど、全てのクラスでクロームブックを使って、いろんなソフトを使っていました。例えば2年生の図工でしたら、アニメーションの秘密ということでビスケットという、簡単なアニメーションを作るソフトを使って「はらぺこあおむし」の絵を自分で描かせて、それを動かすといったことをやっていました。そういう自分で描いた絵が動く、という小さな感動、そういうものを積み上げて学年が進むにつれてそういうものを積み上げていくことで、プログラミング的考え方に拒否反応しないとか逆に楽しむ、といったことにもつながるので、結構面白い取組をしているなということをおもいました。全てこの学年には教務主任が、どういうソフトを使って授業でどういうふうに使えばいいかというのをサポートしているようなので、全ての小・中学校においても校長先生の

理解もあると思いますが、きちんとサポートできる先生を置くことで、児童生徒にプログラミング的考え方だけではなく、コンピューターをどうやって使っていくか、ということが身に着けさせることができるのかなと思いました。

小学校は以上でして、クロームブックの活用授業のほうは、南中学校に行ってみりました。数学の授業でしたがテーマが渋滞の解消ということで、渋滞を研究している先生の話ビデオで聞かせた後に、渋滞をどうやれば解消できるのか、というシミュレーションソフトを使って実際に子供たちが体験して、こうやればどうだろう、とトライアンドエラーで渋滞を解消していくという方法を学んでいました。途中でその授業を切り上げたため、最後の着地点がどこにいったのか分からないですけど、多分、数学的にどうやって解決するか、というのが結論として出てくるのかなと思いました。数学が一番やりやすいと思いますが、そういうシミュレーションソフト等を上手く使うことで子どもたちの理解度が上がっていくかと思います。これは渋滞だけではなくそのほか例えば一次関数とか二次関数とか値を変えることでどういう図形が描かれるのかというのは、手で書くと大変だけれどシミュレーションソフトでやればすぐ値を変更して見ることができます。そういうふうにもいろいろできると思いますので、多分、他の中学校でもやっていると思いますが、もしやっていないようであれば、そういうふうにもいろいろ工夫してやってみればどうかと思いました。

簡単ですが、以上です。

○工藤教育長

はい、ありがとうございました。委員の皆様から、御質問等ございませんか。

～なし～

○工藤教育長

お二人の委員からお話を聞きましたけれども、池田委員は2つの学校を見てみて、青森市のいじめ対策等について、成果とか課題とか感じるものがありましたなら一言お願いできればと思います。

○池田委員

成果としては、非常に、認知度を上げていこうという、とにかく重大事態になる前にできるだけ早く変化を、それが児童生徒に対しても後々まで引きずることなく、すっきりするということで、やはりアンケートよりは普段接する中ですぐ気になったらすぐ声掛けをして別に深刻な相談ではなく、「どうしたの、何かあったの」っていうぐらいの感じで声掛けをしていくという、その先生と児童生徒との距離の近さというのはすごくいいなと感じましたし、こういう状況が増えていくといいなと思います。課題としては、やはり、いじめの認知の仕方です。各学校それぞれ、当然規模等によって学校に一番適した方法があると思いますが、全体を通して統一的なものが何かあれば、それをどんどんほかの学校にも広めていってもらえればな、ということなんです。特に中学生は今タブレットを持って帰れますので、ちょっと学校ではなかなかと思っても、家に帰って落ち着いて、場合によっては保護者とも相談しながらリアルタイムに近い状態でやり取りも多分できる状態だと思います。そして、学校が今まさにトラブルになっている状態であれば、少し離れた教育委員会に直接、ということもタブレットだとそうハードルが高くないかなと思います。前みたいに電話番号調べて電話をかけてとなると、なかなかでしょうけど、送信先のアドレスを選ぶだけでそういうものの活用ができると思いますし、多分かなり活用している中学校もあると思いますので、上手に活用できている例をいろんな学校にも広めてもらうということを教育委員会にやっていただければと思います。

○工藤教育長

池田委員ありがとうございました。参考にさせていただいて、様々な取組を各学校に伝えて各学校がさらにその取組をより良いものにしていく、というふうに努めていきたいと思いをします。

天内委員には、様々見ていただいた中で、今後のプログラミング教育の方向性について、こうしていけばいいのではないかとこのところを一言お願いできればと思います。

○天内委員

方向性ということなのですけれども、やはり学年によって違ってくると思います。低学年のうち、そんなプログラミングプログラミングではなくても、基礎的な、さっき紹介したアニメーションからでいいのでやっていって、5年・6年辺りで、論理的な考え方を入っていけばいいのではないかと考えています。実際、紹介してもらった5年生の家庭科では、クッキングはじめの一步ということでジャムボードを使ってタートル図のような感じで調理の流れを図で表すということをやっていました。実際、並行的にやらないといけないものとか、この作業が終わったら次この作業という順番があるので。調理というのはやはり論理的なものの考え方にすごく重要な話になってくるわけです。家庭科だからコンピューターは関係ないとかではなく、いろいろできると思うので、学年ごとにどんどんステップを上げていく、という形にすればいかがでしょうか。

○工藤教育長

ありがとうございました。プログラミングに係る系統性ということだと思いますが、青森市の先生方は全国に比べると、かなり端末を使って授業をしていると、ということが全国の調査で出ておりました。そういった先生方にプログラミングを理解して指導していくという、教師である以上当然必要なことではあるので、なかなか関心欲をもって教材研究をするのも大変な部分もあるかと思いますが、その辺をどのようにしたらいいか今後考えて、天内委員がおっしゃるような系統性をもう少し踏まえてやれるようにしていければなと思いますので、持ち帰ってまたやってみたいと思います。たいへんありがとうございました。

非常に貴重な御意見をいただき、こういう時間がもっと多ければいいと思いましたが、また色々教えていただければと思います。よろしくお願ひします。

その他、事務局から何かありますか。

○教育部長

令和4年度第1回青森市総合会議の開催についてお知らせいたします。教育委員の皆様にはすでに御案内しておりますが、教育委員会では、市長と教育長並びに教育委員の皆様と教育・学術及び文化の振興を図るための重点的な施策などについて、協議・調整する機会を設けておまして、今年度は令和5年1月10日の15時40分からアウガ8階の会議室で開催いたします。

当会議は、公開としており、会議当日は、大学生との交流やICTコンテストなどにつきまして、活発な意見交換や御提案が予定されております。

以上です。

○工藤教育長

皆様から何か御質問等ありませんか。

～なし～

○工藤教育長

それでは本日予定していた案件の報告等は全て終了しました。

以上をもちまして、令和4年第12回青森市教育委員会定例会を終了いたします。

令和4年12月23日開催の令和4年第12回青森市教育委員会定例会の会議録を作成した。

令和5年 1月17日

書記 山田 顕世

上記のとおり相違ないことを認め署名する。

令和5年 1月17日

署名委員 池田 享誉

署名委員 土岐 志麻